航空宇宙産業関係で03年度の大樹町

経済波及効果は3億円

工事関係者増など　例年の4倍に試算

【大樹】町はこのほど、２００３年度の航空宇宙産業基地形成に関する活動報告書をまとめた。それによると、町内で行われた航空、宇宙関連の実験は、北大や道工大のハイブリッドロケット打ち上げ（04年３月）など計13件だった。視察や工事関係を含め、町内外に与えた経済波及効果を過去最高となる約３億円とはじき出した。特に、無人飛行船を使った成層圏プラットフォーム計画にかかわる実験場の整備工事で多くの関係者が来町したため、例年の約７０００万円に比べ約４倍に見積もった。（浅井文人）

実験件数は1減（02、03年度は14件）だが、宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）によるドルニエ機を使った次世代飛行方式の研究（03年12月）やＩＨＩエアロスペースの実験機落下回収試験（04年2月など）など重要な実験が行われた。

町の調べでは、実験による研究者などの来町者は１５００人、視察は３０００人、実験場建設工事関連は５２００人、飛行船組み立て関係は３０００人（町内業者含む）で、合計1万人に上った。

試算値は、この数字を基に宿泊や工事、食事、資材調達、タクシーやレンタカーの利用、施設管理費などを計算した。

今年度はＪＡＸＡを中心とし、60㌔級の無人飛行船を使った成層圏プラットフォーム計画の定点滞空飛行試験が、町多目的航空公園で約半年間行われる。将来的には高度20㌔の成層圏で浮かべ、人工衛星のように通信や放送に役立てることが狙い。同飛行試験では機体を上空約4㌔まで移動させ、一定位置に常駐する技術を確立する。

町総務企画課では「飛行試験では数十人から百数十人のスタッフが来町する」と話し、地元に及ぼす一層の経済効果に期待している。

今年3月に行われた北大のハイブリッドロケット実験。昨年度も多くの研究者や学生が町を訪れた